

平成29年度
武蔵野市敬老記念事業見直し検討会
報告書

平成30年3月
武蔵野市敬老記念事業見直し検討会

敬老記念事業見直し検討会報告書

1 はじめに

敬老の行事は、昭和 22 年に兵庫県多可郡野間谷村の「としよりの日」から始まったとされ、その後全国に広がっていった。その後、「敬老の日」と改称され、国民の祝日となったが、法改正(ハッピーマンデー制度)により平成 15 年から祝日が 9 月の第 3 月曜日となったことに伴い、老人福祉法が改正され、9 月 15 日を「老人の日」、同日から一週間を老人週間と定め、現在も全国でさまざまな敬老行事が行われている。

本市の敬老記念事業については、昭和 33 年に開始した敬老金支給事業を始めとして、各種事業を行ってきたが、高齢化社会等時代のニーズに対応して随時事業の見直しを行ってきた。平成 11 年 6 月には「武蔵野市敬老事業のあり方を考える懇談会」が設置され、敬老金をはじめとした市全体の敬老関係事業の見直しを検討したところ、敬老金支給事業や敬老記念品支給事業など現金給付的な事業はもはや時代にあわず、その財源を長生きして良かったと実感できる社会の実現に向けた施策に振り分けることが必要とされ、事業の廃止や統合が行われた。その結果として、同事業は現在の「敬老福祉の集い」・「友愛訪問」・「百歳訪問」の 3 事業となった。また、平成 21 年 7 月には「敬老記念事業見直し検討会」が設置され、対象者の増加に対応するための見直しが行われた。「敬老福祉の集い」の開催回数を 1 日 1 回 3 日間から 1 日 2 回 2 日間へ変更し、友愛訪問については、不在時にも対応した不在連絡票を導入するなど、状況に応じた見直しを行っている。

「敬老福祉の集い」と「友愛訪問」の対象である 75 歳以上の高齢者数は、近年では毎年約 500 人増加しており、今後もさらに増加することが見込まれている。また、事業の共催団体である武蔵野市赤十字奉仕団員（以下「奉仕団員」と表記）の高齢化等により、各奉仕団員の負担感も問題になってきている。そこで、再び「敬老記念事業見直し検討会」を設置し、事業の見直しと今後の事業のあり方について検討した。

2 事業の意義・必要性

(1) 友愛訪問

友愛訪問は、前述のとおり毎年 75 歳以上の高齢者宅を奉仕団員が訪問し、本人や家族に直接会い、高齢者の様子を知ることのできる貴重な機会である。訪問率も毎年 95%以上と非常に高い。初めて訪問する際には希薄であった関わりが、毎年訪問することで関係が構築されることもあり、声かけや見守りとしての役割も大きく、必要に応じて奉仕団員から在宅介護・地域包括支援センターや民生委員へとつなぐ、地域における重要な相談窓口のひとつにもなっている。アンケートでも、回答者のうち 83.8%が「訪問してくれてよかった」と答えており、市や民生委員には相談しづらい事や日常生活についての悩みなども気軽に相談できる機会として必要性は非常に高い。

(2) 敬老福祉の集い

平成 28 年に実施した高齢者調査（アンケート）の結果、「敬老福祉の集いの実施について」という質問では、回答者（2,377 人）のうち 66.8%が「続けてほしい」と回答している。また、過去 5 年間（平成 25～29 年度）の平均参加率についても 22.6%と対象者の約 4 分の 1 が参加する参加率の高い事業となっている。

老人福祉法における老人の日は、「国民の間に広く老人の福祉についての関心と理解を深めるとともに、老人に対し自らの生活の向上に努める意欲を促す日」とされている。参加者の中には車椅子や杖を使用しているなど、日頃外出する機会が少なくなっている高齢者も多い。この敬老福祉の集いに参加するというのが、高齢者が一堂に会して、演芸を楽しむとともにお互いの健康を祝い、明日への活力の一助とするための貴重な機会となっている。また、友愛訪問と同様に奉仕団員が年に一度参加者の元気な姿を見て、声かけ等を行うことができることも含め、この事業開催の意義は大きい。

3 事業の現状と課題

友愛訪問、敬老福祉の集いは、どちらも奉仕団にご協力いただいている。奉仕団は、これらの地域福祉活動をはじめ、災害救護活動、献血推進活動、募金活動、赤十字病院等での奉仕活動など、市内でさまざまな活動を積極的に行っている。特に友愛訪問については、奉仕団員が戸別に訪問をするきめ細やかな活動であるが、近年、対象者の増加とともに、奉仕団員の高齢化も進んでおり、このまま続けていくことが難しくなってきている。また、敬老事業に対する奉仕団員の意識も徐々に変わりつつある。毎年反省会でも、「そろそろ限界」との声があり、敬老事業の見直しが緊急の課題となっている。

財政面においては、対象者の増加分に見合う予算の増額は厳しい状況であるため、このまま対象者が増え続けると、友愛訪問記念品や集いのお土産用弁当の単価引き下げ等の検討が必要になってくる。これらのことから、今後も事業を継続していくためには事業内容の見直しが必要不可欠である。

(1) 友愛訪問

友愛訪問事業は、毎年8月下旬または9月上旬から、75歳以上の対象者宅を奉仕団員が戸別訪問し、安否確認、声かけ、敬老福祉の集いの案内等を行っている。現在、奉仕団員数は638名（平成30年2月1日）である。訪問件数は毎年約500人増加しているうえに、訪問しても不在が多く、何度も訪問しなければならない状況もある。さらに、大型マンションの増加に伴いセキュリティも厳しくなっており、手間のかかる訪問が増えていることから、奉仕団員の負担はますます増加すると思われる。

(2) 敬老福祉の集い

敬老福祉の集いは、毎年9月下旬または10月上旬の2日間、市内在住の75歳以上の高齢者を市民文化会館に招待し、式典及び演芸等を行っている。案内状は、武蔵野市赤十字奉仕団（以下「奉仕団」と表記）の全面的な協力により、対象者宅を戸別訪問（友愛訪問）して届けている。

平成29年9月現在75歳以上の対象者は約16,700人で、今後も毎年約500人増加することが見込まれる。平成22年からは1日2回2日間開催としているものの、文化会館の1階席はほぼ満席となっている。敬老福祉の集いの会場である市民文化会館の収容人数は、改修後1階席が912席、2階席が340席の利用が可能であるが、階段が急であること、車椅子等歩行が容易でない参加者が増えていることなど、高齢者には大きな負担となっているため、1階席に収まる程度の人数で実施するのが好ましいという意見も出ている。また、対象者の身体状況等により、来られる人、来られない人がおり不公平感がある。

送迎バスについては、配車台数が多いために、帰りのバス乗車までに長時間待たせてしまい、「こんなことならシルバーパスで帰ったのに」という声を聞くこともある。

資料1 敬老記念事業対象者と「敬老福祉の集い」参加者数

(対象者数は各年9月15日基準日)

年度	25	26	27	28	29
対象者数	15,398	15,477	15,795	16,233	16,707
参加者数	3,901	3,665	3,606	3,369	3,368
参加率	25.3%	23.7%	22.8%	20.8%	20.2%
メイン出演者	デュークエース 芹 洋子	中島 啓江	新垣 勉	青島広志 横山美奈 小野 勉	COCOROCO 司会 葛西聖司

※過去5年間平均 参加者数 3,582人 22.6%

※演芸の出演者によっても参加率に影響がある。

※市民文化会館大ホール 改修後座席数 1,252席

(うち1階席912、車椅子席4、2階席340)

資料2 敬老記念事業対象者と友愛訪問者数

(対象者数は各年9月15日基準日)

	対象者数(人)	訪問者数(人)	訪問率
平成25年度	15,398	14,738	95.7%
平成26年度	15,477	14,824	95.8%
平成27年度	15,795	15,063	95.4%
平成28年度	16,233	15,506	95.5%
平成29年度	16,707	15,889	95.1%

資料3 敬老記念事業に要する費用

(単位 千円)

年度	27		28		29(見込)	
友愛訪問	記念品	11,975	記念品	12,383	記念品	12,652
集い	弁当	2,540	弁当	2,596	弁当	2,631
	委託料	4,913	委託料	5,420	委託料	4,568
	バス	1,402	バス	1,453	バス	1,752
100歳訪問	祝品	950	祝品	1,600	祝品	2,250
その他		1,319		2,086		1,380
計		23,099		25,538		25,233

※28年度は、文化会館改修工事のため、総合体育館にて開催

4 今後の見直しの方向性

(1) 友愛訪問

友愛訪問は、奉仕団の全面的な協力により、敬老福祉の集いの案内状の配付や市の高齢者サービスのお知らせを伝えるほか、高齢者の相談窓口となり、生活上の不安解消や地域での孤立を防ぐといった重要な意義を持っている。アンケートの結果からも、この事業の意義があり、必要性の高さが認められるため、事業については継続していくべきである。

しかし、これ以上奉仕団員の負担が増加すると事業の継続は困難である。武蔵野市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画においても、事業を継続していくには、対象者の増加による負担増をできるだけ軽減する取組が必要不可欠であるという方向性が示された。そこで、アンケートの結果も考慮し、対象年齢を平成30年度は76歳以上、平成31年度には77歳以上と段階的に引き上げ、さらに2～3年後には対象者数の推移を確認しながら、奉仕団の体制や奉仕団員の意識の状況に配慮しつつ、引き続き見直しを進めていくことが望ましいであろう。

(2) 敬老福祉の集い

敬老福祉の集いは、市として高齢者の長寿を祝うことで、高齢者の楽しみとともに市民の敬老意識の普及高揚としての役割も持ち、市民全体で支える敬老事業として継続するべきであるが、高齢者人口の増加への対応と限りある財源を有効に活用するためには、実施方法を変更していく必要が出てきている。

現在、敬老福祉の集いへの案内は、友愛訪問にて行っている。事業相互の混乱を避けるため、敬老福祉の集いについても友愛訪問と同様の年齢の引上げが必要である。

送迎バスについては、現在配車台数が多いために帰りのバス乗車までに時間がかかってしまう問題が出ている。また、他市ではほとんど行われていないサービスであり、参加者がシルバーパス対象年齢であることから廃止を検討すべきと考える。しかし、境南町や吉祥寺東町等のように、会場（市民文化会館）から離れた東西地域では、送迎バスの利用率が高いことも考慮し、遠方の地域に限り送迎バスを継続し、状況を見ながら運行の縮小を図っていくことが望ましい。

5 実施方法の変更に伴う留意点

敬老事業の見直しについては、上記のとおりその必要性や奉仕団員への負担軽減のための工夫等を関係者等と十分協議する必要がある。今回の見直しは、増加する対象者数に対応するため、対象年齢の引き上げという方向性を示したものだが、今後引き続き事業の見直しを行う際には、外出を促す目的の「敬老福祉の集い」と安否確認の目的も含まれる「友愛訪問」の目的に合わせた対象年齢の検討が必要である。今後の見直しには、2つの事業のバランス、案内方法や事務の流れ、対象者のニーズ、財源の確保等、様々な側面からの検討が必要となるであろう。いずれにしても、この敬老事業を「誰もがいきいきと安心して住み続けられる支え合いのまち」を実現するための重要な施策のひとつとして、時代に合った見直しを進めながら継続していくことが望まれる。

敬老事業アンケート調査結果について(まとめ)

アンケートの上位回答は以下のとおり。友愛訪問については、回答者のうち約8割が「訪問してくれてよかった」「続けてほしい」、また、「敬老福祉の集い」については、6割が「続けてほしい」という回答結果となった。詳細は別紙のとおり。

問1 年齢(上位1位)

75～79歳	858票	36.1%
--------	------	-------

問2 性別(上位1位)

女	1,470票	61.8%
---	--------	-------

問3 居住地区(上位3位)

吉祥寺北町	297票	12.5%
境南町	230票	9.7%
境	214票	9.0%

問4 武蔵野市赤十字奉仕団による訪問について(上位1位)

訪問してくれてよかった	1,992票	83.8%
-------------	--------	-------

問5 お祝い品について(上位1位)

続けてほしい	1,720票	86.3%
--------	--------	-------

問6 お祝い品の内容について(上位1位)

お菓子がよい	1,413票	82.2%
--------	--------	-------

問7 「敬老福祉の集い」の実施について(上位1位)

続けてほしい	1,589票	66.8%
--------	--------	-------

問8 「敬老福祉の集い」に参加する理由は?(上位1位)

演芸が楽しみだから	1,039票	65.4%
-----------	--------	-------

問9 送迎バスについて(上位2位)

利用していない	944票	59.4%
利用している	569票	35.8%

問10 送迎バスの運行について(上位1位)

続けてほしい	451票	79.3%
非該当	1,808票	

問11 送迎バスの運行がない際の「敬老福祉の集い」参加の有無

参加する	275票	48.3%
参加しない	228票	40.1%

問12 「敬老福祉の集い」の代わりにどの事業を充実させるか(上位3位)

特別養護老人ホームなどの施設の整備	220票	30.9%
買い物、掃除など日常生活のお手伝いをするサービス	154票	21.6%
24時間対応可能なヘルパー等のサービス	136票	19.1%
非該当	1,665票	

問13 敬老記念事業の今後のあり方を検討することとなった場合の見直し内容(上位1位)

対象年齢を見直す	802票	33.7%
----------	------	-------

資料5 平成29年度 分団別のバス送迎人数表

	対象地域	対象者数	参加者			バス使用率	バス台数
			会館受付	バス乗車	合計		
1分団	東町2丁目44～45、 東町3,4丁目	699	52	32	84	38.1%	2
2分団	南町2丁目20～36、 南町3,4,5丁目	1,185	49	63	112	56.3%	4
3分団	東町1丁目、 東町2丁目1～43	946	80	36	116	31.0%	2
4分団	南町1丁目、南町2丁目1～19、 本町1丁目	712	73	32	105	30.5%	1
5分団	北町1,2丁目	881	115	23	138	16.7%	1
6分団	本町2丁目、本町3丁目1～19、 本町4丁目1～25、 御殿山1丁目	1,069	150	26	176	14.8%	1
7分団	北町3,4,5丁目	1,125	303	14	317	4.4%	1
8分団	本町3丁目20～28、 本町4丁目26～32、 御殿山2丁目、中町全域	1,787	391	26	417	6.2%	(1) 2
9分団	西久保全域、緑町全域	2,558	695	—	695	—	0
10分団	関前全域、八幡町全域	1,532	336	22	358	6.1%	(2) 2
11分団	境南町全域	1,677	105	145	250	58.0%	(3) 8
12分団	桜堤全域	1,003	91	67	158	42.4%	4
13分団	境全域	1,533	111	122	233	52.4%	5
その他・障害者受付		—	209	—	209	—	—
全 体		16,707	2,760	608	3,368	18.1%	(6) 33

() は、内マイクロバス数

友愛訪問事業の経過
(昭和33年度～平成29年度)

年度	対象者数	事業名	事業内容当
昭和33年	500 人	敬老金支給事業	昭和33年に敬老金支給事業が開始。1月1日現在、77歳以上で市内に引き続き3年以上居住している者に市から現金1,000円(生活保護受給者は相当額の現物)を支給した。 東京都敬老金は、75歳以上(対象者837人)を対象に実施され、受付支給事務を行った。
昭和34年	858 人		9月15日現在市内在住の75歳以上の高齢者に対し、日赤奉仕団の協力で、武蔵野市敬老金1,000円、東京都敬老金2,000円を支給。
昭和35年	910 人		
昭和36年	1,020 人		
昭和37年	1,135 人		
昭和38年	1,178 人		
昭和39年	1,254 人		
昭和40年	1,334 人		
昭和41年	1,514 人		
昭和42年	1,573 人		
昭和43年	1,871 人		
昭和44年	1,971 人		
昭和45年	2,111 人		武蔵野市敬老金2,000円、東京都敬老金5,000円となる。
昭和46年	2,202 人		
昭和47年	2,332 人		武蔵野市敬老金3,000円、東京都敬老金5,000円となる。
昭和48年	2,627 人		
昭和49年	2,743 人		
昭和50年	2,885 人		
昭和51年	3,127 人		
昭和52年	3,280 人		
昭和53年	3,522 人		
昭和54年	3,750 人		
昭和55年	3,918 人		
昭和56年	4,110 人		
昭和57年	4,418 人		
昭和58年	4,655 人		
昭和59年	4,914 人		
昭和60年	5,214 人		
昭和61年	5,537 人		
昭和62年	5,792 人		
昭和63年	6,042 人		
平成元年	6,352 人		
平成2年	6,606 人		
平成3年	6,772 人		
平成4年	6,988 人		
平成5年	7,241 人		
平成6年	7,427 人		
平成7年	7,804 人		
平成8年	8,094 人	平成10年に東京都敬老金5,000円が廃止され、武蔵野市敬老金5,000円のみ支給となる。	
平成9年	8,448 人		
平成10年	8,779 人		
平成11年	8,989 人		

平成12年	9,536 人	友愛訪問事業	平成12年に敬老金支給事業を廃止し、友愛訪問事業として敬老福祉の集いの案内と長寿のお祝いのメッセージをお届けする。
平成13年	9,989 人		
平成14年	10,457 人		
平成15年	10,807 人		
平成16年	11,239 人		
平成17年	11,447 人		
平成18年	12,251 人		
平成19年	12,774 人		
平成20年	13,266 人		
平成21年	13,795 人		
平成22年	14,217 人		
平成23年	14,656 人		
平成24年	15,055 人		
平成25年	15,398 人		
平成26年	15,477 人		
平成27年	15,795 人		
平成28年	16,233 人		
平成29年	16,707 人		

(実績は各年度事務報告書より抜粋)

敬老福祉の集いの経過
(昭和25年度～平成29年度)

年度	参加者数等		日数	事業名	会場
昭和25年	招待人員	291 人	—	敬老会（市内在住で75歳以上の高齢者に、長寿をお祝いして「敬老会」を開催している。）	—
昭和26年	老人	445 人	5 日間		武蔵境保育園、第一小学校、住宅集会所、第五小学校、第三小学校
昭和27年		505 人	1 日間		慶応大学医学部講堂
昭和28年	参加者	594 人	—		市内 6ヶ所
昭和29年		674 人			市内 9ヶ所
昭和30年		750 人			市内 7ヶ所
昭和31年		829 人	3 日間		前進座及び亜細亜大学
昭和32年		980 人	3 日間		前進座及び亜細亜大学
昭和33年	出席者	850 人	2 日間	敬老金制度創設記念敬老大会	大野田小学校・第二小学校（体育館）
昭和34年	招待者	1,100 人	3 日間	敬老会（市内在住で75歳以上の高齢者に、長寿をお祝いして「敬老会」を開催している。）	本宿小学校・第三中学校・第二小学校（体育館）
昭和35年		1,200 人			本宿小学校・第一中学校・第二小学校（体育館）
昭和36年	接待人員	1,350 人			本宿小学校・第四中学校・第二小学校（体育館）
昭和37年		1,450 人			
昭和38年		1,370 人			
昭和39年		1,476 人			
昭和40年		1,518 人			
昭和41年		1,601 人			
昭和42年		1,687 人			
昭和43年	1,900 人	武蔵野公会堂			
昭和44年	2,064 人				
昭和45年	2,177 人				
昭和46年	2,269 人				
昭和47年	2,437 人				
昭和48年	2,589 人				
昭和49年	2,743 人		4 日間		
昭和50年	2,885 人		1 日間		
昭和51年	3,100 人			亜細亜大学（体育館）	
昭和52年	3,200 人		4 日間	武蔵野公会堂	
昭和53年	3,480 人				
昭和54年	3,700 人				
昭和55年	3,850 人	5 日間	前進座劇場		
昭和56年	3,900 人	4 日間			
昭和57年	4,418 人	5 日間			
昭和58年	4,655 人				
昭和59年	4,914 人				
昭和60年	5,214 人	2 日間	市民文化会館（大ホール）		
昭和61年	2,600 人				
昭和62年	2,700 人				
昭和63年	出席者数	2,900 人			

平成元年	出席者数	2,900 人	2 日間	敬老福祉の集い (市内在住で75歳以上の高齢者に、長寿をお祝いして「敬老福祉の集い」を開催している。)	市民文化会館 (大ホール)
平成2年		2,600 人			
平成3年		2,600 人			
平成4年		2,600 人			
平成5年		2,600 人			
平成6年		2,600 人			
平成7年		2,729 人			
平成8年		2,851 人			
平成9年		2,809 人			
平成10年		2,526 人			
平成11年		2,736 人			
平成12年		2,637 人			
平成13年		2,611 人	3 日間		
平成14年		2,764 人			
平成15年		2,734 人			
平成16年		3,038 人			
平成17年		2,913 人			
平成18年		3,160 人			
平成19年		2,985 人			
平成20年		3,505 人	2 回× 2 日間		
平成21年		3,331 人			
平成22年		3,602 人			
平成23年		3,607 人			
平成24年		3,586 人			
平成25年		3,901 人			
平成26年		3,665 人			
平成27年		3,606 人			
平成28年		3,369 人			
平成29年		3,368 人			
					総合体育館 (メインアリーナ)
					市民文化会館 (大ホール)

(実績は各年度事務報告書より抜粋、一は記載無し)

敬老記念事業見直し検討会

1 目 的

事業の対象となる75歳以上の高齢者が毎年約500人増加している一方、事業協力者として戸別訪問等を行っている武蔵野市赤十字奉仕団においては、団員の高齢化等により、人手などの課題が生じていることから、事業全体を見直し、事業のあり方等を検討する。

2 検討項目

- (1) 事業の現状、課題の把握
- (2) 事業の意義、必要性
- (3) 今後の方向性
- (4) その他この事業のあり方に関すること

3 構 成 員

所属及び役職	氏 名	
武蔵野市民社会福祉協議会 会長	◎	小 美 濃 純 彌
武蔵野市赤十字奉仕団 委員長	○	栖 雲 勲 子
武蔵野市赤十字奉仕団 副委員長		松 井 浩 子
高齢者支援課長		山 田 剛
高齢者支援課管理係長		小 久 保 涉
地域支援課地域福祉担当係長		柳 田 智 仁

◎座長 ○副座長 庶 務 高齢者支援課管理係 益守

4 期 間

平成30年3月31日まで

5 経 過

平成30年3月7日(水) 第1回検討会

平成30年3月27日(火) 第2回検討会

平成29年度 武蔵野市敬老記念事業見直し検討会報告書

平成30年3月発行

発行 武蔵野市 健康福祉部 高齢者支援課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1940 (直通)
